

平成 21 年 7 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18510224

研究課題名（和文） 20 世紀英国の文化変容にともなう  
対外パブリシティ戦略の変遷とその成果研究課題名（英文） An Analysis of British Cultural Strategies in Overseas Publicity and  
Their Accomplishments in the 20th Century

研究代表者

渡辺 愛子 (WATANABE, Aiko)

早稲田大学・文学学術院・准教授

研究者番号：10345077

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード： 西洋史、 政策研究、 イギリス地域研究、 文化外交史、 国際文化学

## 1. 研究計画の概要

本研究は、20 世紀英国の対外文化政策におけるパブリシティ戦略が、国内社会の文化変容を背景に変遷を遂げた様相を、いくつかのケーススタディーをもとに実証的研究と文化研究論の視点から検証し、その成果について考察しようというものである。

## 2. 研究の進捗状況

研究初年度である平成 18 年度は、まず 20 世紀の英国内の文化状況について整理を行った。大英帝国低落から終焉を体験した英国社会において、熱狂的なナショナリズムの高揚が 20 世紀前半の両世界大戦時の対抗文化プロパガンダに反映され、「英国的」文化という一元的なイメージ作りが 20 世紀後半の冷戦期に仕掛けられた情報戦に利用されていたことがわかった。上記の研究成果については、その一部を「メディアとプロパガンダ～戦争文化をめぐる大衆説得術の系譜～」(慶應義塾大学出版会)にまとめた。また、この研究を行う上で、2006 年夏のイギリス出張の際に、ロンドンのインペリアル・ウォー・ミュージアム、チャーチル・ミュージアム、リバプールの第二次世界大戦ミュージアムを訪問したことは有益であった。

平成 19 年度は、「平和」というコンセプトからの事例研究を行う予定であったが、年末に出産を控え、研究の現場から一定期間はなれざるを得ないことが年度始めに判明したため、夏の海外出張では、前年度の研究成果（20 世紀英国の文化状況の整理と「戦争」というコンセプトからの事例研究）の補完的研究を行うことにした。とくに、本年度は、英国政府がいわば「屈折」した文化の伝播を英

国内外で繰り広げ、そのために文化を創出する知識人を利用していたという事実を解明した。とくに、英国の社会主義作家 George Orwell の小説および彼を政府が数十年にわたって監視、利用した経緯について一次資料を中心に調査した。この研究成果については、平成 20 年度の日本英文学会シンポジウムにおいて報告を行い、のちに「英文学をめぐる冷戦期インテリジェンス活動と文化プロパガンダ」というタイトルで Proceeding に発表した。

平成 20 年度は一年間育児休職し、これにともない本研究課題も「育児休業等に伴う交付申請留保(A-10)」を提出したうえで休止したが、平成 19 年度の研究成果のいくつかはこの間に発表された。

## 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

(理由)

前述のとおり、平成 19 年度後半の産児休暇および平成 20 年度の育児休職による。

## 4. 今後の研究の推進方策

本来は研究最終年度となるはずであった平成 21 年度は、上記の理由より第三年度となる。当初、本研究は、

- ・「戦争」というコンセプトからの事例研究( 戦前の状況、 冷戦期の状況)
- ・「平和」というコンセプトからの事例研究( EU をめぐるヨーロッパ諸国との文化協調、 UNESCO を例に世界規模での文化協調)
- ・参考事例( 日英交流)

から成り立つものであった。

今後の二年間ではこれまでの遅れをなるべく取り戻せるよう努力し、当初の計画の参考事例以外、すなわち、までの研究は達成したいと考えている。

平成 21 年度には以下の項目について研究を行う予定である。

上記の未終了分に取り組む。とくにこのトピックにおいては、現在未投稿の論文があるのでこれを投稿の上、来年 3 月までの刊行をめざす。

上記について、英国の国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが最近力を入れている EU との協調関係に注目し、夏の出張ではベルギー・ブリュッセル EU 関連機関の EUNIC を訪問し、ヒヤリング調査を行う。その他、英国においての資料収集も継続する。

さらに平成 22 年度には、上記を中心とした研究、フィールドワークを盛り込めるよう努力したい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

渡辺愛子「英文学をめぐる冷戦期インテリジェンス活動と文化プロパガンダ」(査読なし), 『日本英文学会第 80 回大会 Proceedings』(2008 年), pp. 140-42.

[学会発表](計 1 件)

渡辺愛子「英文学をめぐる冷戦期インテリジェンス活動と文化プロパガンダ」於:日本英文学会第 80 回大会 Symposia (2008 年 5 月 24 日, 広島大学)

[図書](計 2 件)

渡辺愛子〔ジェームス・M・バーダマンとの共著〕『あらすじで読む英国の歴史』(中経出版, 2008 年), 全 270 ページ

渡辺愛子「メディアとプロパガンダ～戦争文化をめぐる大衆説得術の系譜～」, 『愛と戦いのイギリス文化史～1900-1950 年～』, 武藤浩史ほか編 (慶應義塾大学出版会, 2007 年), pp.288-301.